

# みどりの オープンキャンパス

Design Session Tama 2022  
Green Open Campus

デザインセッション  
多摩 2022

DeST

多摩丘陵に連なる大学のキャンパスには、それぞれに学びの環境としての多様な緑地があります。大学は、教育と研究に加えて、近年では社会貢献が求められ地域連携の機会も増えています。そうした中で、大学の緑地を活用しての環境教育、農林業体験、動植物観察、ビオトープや東屋の設置などによる憩いや交流の場の試みが、学生や教職員だけでなく、地域の人々も参加しておこなわれています。大学の緑地をもっと活用できたら、地域はもっと魅力的になっていくはず。その時、デザインの力はどう活かせるのか。多様な立場の人と、前向きに話し合い、考え、交流する機会になれば幸いです。

# 多摩エリアの緑地



## 多摩エリア土地利用面積の変化

多摩エリア（奥多摩町・檜原村除く28市町）の5年間の土地利用面積の変化。

宅地や公園、道路などは増加し、緑地の多くを構成する農用地、森林、原野では減少が見られる。



※大学の敷地は「宅地(教育文化施設)」に含まれる。

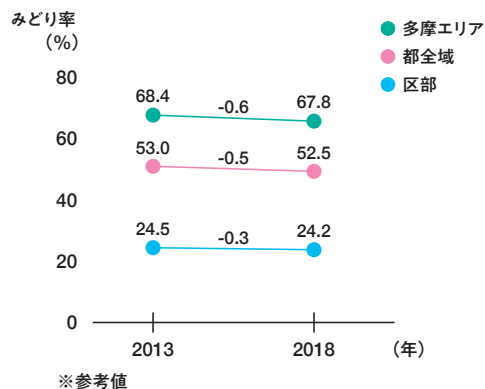
■ 東京都「東京の土地利用 平成29年多摩・島しょ地域」



## 東京の「みどり率」の変化

みどり率：地域全体に占める緑（樹林、公園緑地、農地、崖線、河川、敷地内緑化など）と水の面積割合。

※2018年調査より、従来に比べて高い精度で緑を抽出することができる近赤外線画像を活用してみどり率を算出。2013年の参考値は、同じ手法により、航空写真及び近赤外線画像を活用した値を算出したもの。



■ 東京都「平成30年「みどり率」の調査結果について」

# 東京の緑地と大学に関する年表

国の法律や  
計画

都の方針や  
計画

市の条例や  
計画

大学に関わる  
法律

高度  
経済  
成長  
期

## 1959(S34)

「工場等制限法」

大都市中心部への産業及び人口の過度の集中を防止するため、一定面積以上の工場や大学等の新設を制限。そのため多摩エリア、埼玉など郊外に多くの大学が移転。

## 1939(S14)

「東京緑地計画」

大都市の無秩序な拡大を防止するための「緑地」として、グリーンベルトが都市計画行政に取り入れられた。戦後の農地改革の中で、これらの緑地は農地として開放され縮小。

## 1973(S48)

「都市緑地保全法」

都市部における緑地の保全や緑化推進のための仕組みを定めたもの。緑地保全地域・特別緑地保全地区・緑化地域を指定、緑地協定を定めることができる。2004年に「都市緑地法」に名称変更。

## 1966(S41)

「首都圏近郊緑地保全法」

1都7県の首都圏市街地の近郊（近郊整備地帯）に存在する自然環境を保全することが目的。保全区域内で、建築物の建築、土地の形質の変更、木竹の伐採等をする場合は、都道府県知事に届出が必要。

## 2007(H19)

「学校教育法」改正

大学の目的に「社会貢献」を追加。地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展に資する開かれた教育機関となることが重要とされている。

## 1986(S61)

「八王子市緑化条例」

緑地保全と緑化推進、緑化についての知識普及などを目的とし、緑地保護地区や緑化推進地区の指定について、また開発に伴う植樹義務や公共施設等の緑化について定められている。

## 2017(H29)

「都市づくりのグランドデザイン」(東京都)

2040年代の目指すべき東京の都市像を実現するための基本方針と方策。「都市づくりの7つの戦略」のうち戦略6において、「東京の緑を、総量としてこれ以上減らさない」ことを大きな原則として、緑を守るとともに新たな緑を創出していくこととしている。

## 2010(H22)

「緑確保の総合的な方針」(東京都)

減少傾向にある民有地の緑の保全やあらゆる都市空間への緑化推進等を、計画的に推進していくことを目的に、都と区市町村（島しょを除く）が合同で策定。10年間の計画期間内に確保する緑の面積などを明確化したほか、緑のまちづくりへの取組や、緑の確保をさらに推進するための施策を提示。

## 2020(R2)

「みどりの基本計画」(八王子市)

「緑地の保全及び緑化の推進」、「都市公園の整備及び管理の方針」、「生産緑地地区内の緑地の保全」などを総合的かつ計画的に実施するための、緑とオープンスペースに関する総合計画。

## 2019(H19)

「都市計画公園・緑地の整備方針」改訂(東京都)

都市計画公園・緑地の計画的な整備促進と、整備効果の早期実現に向けた取組の方針を明らかにするもの。『「未来の東京」戦略ビジョン』や自然災害などを踏まえ、2029年までの10年間を計画期間として改定。





## 地域にひらく教材植物園

### 東京学芸大学 小金井キャンパス

「農園」の愛称で親しまれる、東京学芸大学環境教育センターにある教材植物園。武蔵野の里山をコンセプトに小金井キャンパスに整備された農園は、雑木林や竹林、屋敷林のほか、田畑や果樹園、温室なども配置され、環境教育の研究を目的とする体験学習をはじめ様々な授業のフィールドとなっています。環境教育センターでは、絶滅が危惧される野生の動植物や、栽培植物などを計画的に育成管理しており、農園のウェブサイトでは動植物や作物のデータベースを見ることができます。

また、年間を通して小学生が稲作体験をしたり、市民が生ゴミ堆肥を使った体験農園として利用するなど、農園は地域の人たちの体験や学びの場としても活用されています。

→東京学芸大学環境教育センターwebサイト

→東京学芸大学環境教育センター教材植物園webサイト



小学生たちの田植えと育った稲

## 都心で取り組むアーバンパーマカルチャーと養蜂

### 武蔵野大学 有明キャンパス

武蔵野大学では、2017年から有明キャンパスの屋上コミュニティガーデンで、アーバンパーマカルチャー（都会で人と自然が共に豊かになる関係を持続可能な方法で築いていくこと）をテーマに、無農薬野菜の栽培や、落ち葉や生ゴミコンポストによる堆肥づくり、養蜂活動などに取り組んでいます。屋上コミュニティガーデンは、都市の中で生態系の保全や環境負荷の削減などサステナビリティを学び実践するフィールドであり、そこで学生たちは自ら課題を見つけ、計画し、解決のために行動していきます。

「Rooftop Bee」と名づけられた養蜂活動では、ミツバチの生態系における都市の役割を研究し、収穫したはちみつを商品化して、無印良品東京有明や青山ファーマーズマーケットにて期間限定で販売しました。

→武蔵野大学webサイトー取り組み事例

→武蔵野大学サステナビリティ学科webサイト



アーバンパーマカルチャーの象徴的なロケーション



ガーデンの一角で行われる養蜂活動



## 狭山丘陵の湿地と雑木林を研究する自然環境調査室

### 早稲田大学 所沢キャンパス

自然保護活動が盛んな狭山丘陵の一角に位置する早稲田大学所沢キャンパス。1987年に開設された自然環境調査室では、キャンパス内の雑木林や水田跡の湿地、多様な生態系など自然環境の調査・研究・保全活動などに取り組んでいます。湿地保全活動では学生を中心に市内や遠方からの参加者と一緒に、保全作業や調査、散策を定期的に行い、湿地保全や生物についての講義なども開催しています。2010年からは、復元した水田で「早稲田米」をつくる稲作の活動も始まりました。田んぼの整備や代掻き、田植え、収穫などを学生や地域の方が協力して行い、循環する里山の恵を体感する場になっています。また早稲田大学では、所沢市と本庄市のキャンパス整備において、生物多様性と調和した建設計画（エコロジーキャンパス）を推進しており、自然環境調査室は校地の自然環境を調査・保全する役割を担っています。

→早稲田大学自然環境調査室webサイト



オオムラサキ越冬幼虫の調査



早稲田米の収穫

## 多様な専門領域でキャンパスと地域をつなぐ

### 明星大学 日野キャンパス

コロナ禍をきっかけにキャンパス内の環境調査に着手した明星大学では、雑木林や湧水、絶滅危惧種の植物など、大学の敷地だからこそ保全されてきた自然環境や資源、またその歴史に着目し、里山の活用と地域連携を考える「みどりのキャンパスプロジェクト」を立ち上げました。プロジェクトには、理工学部、経営学部、建築学部、デザイン学部、教育学部など様々な学部が、「多摩の里山を楽しむキャンパス」というコンセプトのもとに参画。それぞれの専門領域を活かしたアプローチで取り組んでいます。

2022年からは「明星 SATOYAMA プロジェクト2022→2025」と名前を変え、魅力ある開かれたキャンパスを目指して、学部の垣根を越えた学生と教職員のほか、地域住民や近隣大学、近隣自治体なども交え活動を広げています。

→明星 SATOYAMA プロジェクト

→明星大学note—学長が聞く、学長に聞く—第14回—「多摩の里山を楽しむキャンパス」に～学部を越えて広がる「みどりのキャンパスプロジェクト」



学内クロッシング。  
経営学部の学生に緑地の説明をする理工学部の学生



明星高校の学生と火起こし体験

# 多摩エリアの丘陵地帯の大学と取組

## ワークセッション

ワークセッション会場  
10大学の取り組み



多摩地域にキャンパスのある大学は、国立、都立、私立、合わせて56校（文部科学省webサイトより。2022年4月1日時点）。

「みどりのオープンキャンパス」第2部のワークセッション会場となる10の大学は、多摩エリアの丘陵地帯に東西に連なっています。それぞれのキャンパスでは、地域や里山に関する取り組み、カーボンニュートラルやサステナビリティの研究などが行われています。



■ 地理院地図Vector（国土地理院）にピンアイコンを追記して掲載

- ①帝京大学 八王子キャンパス ②明星大学 日野キャンパス ③中央大学 多摩キャンパス ④東京薬科大学 八王子キャンパス  
⑤東京都立大学 南大沢キャンパス ⑥多摩美術大学 八王子キャンパス ⑦東京工科大学 八王子キャンパス  
⑧東京造形大学 八王子宇津貫キャンパス（1966年に八王子市元八王子町に開校したのち） ⑨法政大学 多摩キャンパス  
⑩拓殖大学 八王子国際キャンパス ※4桁の数字は多摩エリアに開校または移転した年

## ①帝京大学 八王子キャンパス



所在地：八王子市大塚359  
敷地面積：331,835㎡

### ●帝京大学総合博物館「多摩のヨコガオ発見プロジェクト」

帝京大学八王子キャンパス周辺の自然、歴史、文化、現代に関する魅力を、帝京大学総合博物館が調査したことをもとにして広く社会に紹介するプロジェクト。フリーマガジン「ミコタマ」を創刊。

→帝京大学総合博物館webサイト—多摩のヨコガオ発見プロジェクト

### ●ぼんぼこ山「夢プロジェクト」

隣接する帝京大学小学校でも、校庭横にある「ぼんぼこ山」を子どもたちの学びの場にするため、2022年より里山プロジェクトが始動。6年生が木材を加工し地面を均し、山へ入るための階段づくりに取り組むなど、様々な活動を行っている。

→帝京大学小学校webサイト—TEISHOブログ



## ②明星大学 日野キャンパス



所在地:日野市程久保2-1-1 / 面積:265,067㎡

### ●「明星 SATOYAMA プロジェクト 2022→2025」

学内の自然環境に着目し、その里山としての活用と地域連携について考える。プロジェクトを通してキャンパスの資源を①調べ、②知ってもらい、③デザインし、④創り、⑤整備・管理し、⑥体験する。

→明星大学Webサイト

—「未知の緑地に学ぶ・みりよくちー 明星SATOYAMAプロジェクト2022→2025 始動 〜学部を越え、地域に交わり広がる活動〜」

## ③中央大学 多摩キャンパス



■ 国土地理院撮影の空中写真(2019年撮影)を加工し作成

所在地:八王子市東中野742-1 / 土地面積:518,401㎡ / 建物面積:229,296㎡

### ●里地・里山の生物多様性と生態系サービスの研究

関東地方の里地・里山を中心に、生物多様性と生態系サービスに関する研究や教育、社会連携を展開。中央大学の多摩キャンパスに残存する里山の研究。

→中央大学Webサイト—中央大学のSDGsへの取り組み

### ●多摩キャンパスの保全活動

湧水を利用したビオトープを中心とするキャンパス緑地のメンテナンス。ホタル観賞会開催。(経済学部 黒須詩子教授)

→ChuoOnline—多摩キャンパスに蘇る湧水池 環境再生し、生態系の復元図る

## ④東京薬科大学 八王子キャンパス



所在地:八王子市堀之内1432-1 / 総面積:280,530㎡

### ●薬用植物園

4.1haの敷地に北向き・南向きの両斜面を有し、約500種の野生植物のほか約1,500種の植物をそれぞれの環境にあわせて栽培管理している。植物性廃棄物の活用に取り組んでおり、園内のモウソウチクは筒栽培の展示に活用しているほか、剪定枝などは粉碎して堆肥化の後に活用し、園内で循環させている。教育研究利用に加え、現在は火曜と木曜に一般公開しており、コロナ禍前は年間約6000人の来園者があった。

→東京薬科大学Webサイト—薬用植物園





## ⑤ 東京都立大学 南大沢キャンパス



所在地: 八王子市南大沢1-1 / 総面積: 428,041㎡ / 建物面積: 166,916㎡

### ● 地域ボランティアプログラム 「松木日向緑地プログラム」

「都立大・松木日向緑地」をフィールドとした、里山保全・多世代交流活動。竹林の間伐や竹炭づくりなどの緑地保全と資源の利活用、小中学校と連携した自然体験活動、環境学習の企画・運営、多世代の地域住民が集える拠点（サード・プレイス）づくりと場の運営、緑地の魅力を発信する活動を行っている。

→ [東京都立大学ボランティアセンターwebサイト](#)

## ⑥ 多摩美術大学 八王子キャンパス



所在地: 八王子市鎌水2-1723 / 校地面積: 159,769㎡

### ● 自然との共生を図り、 多摩丘陵の緑豊かな環境の再生に取り組むキャンパス

絵画北棟南側の傾斜地にある雑木林は昔のままの姿で二次自然林を保全している。多摩丘陵の勾配を生かして自然との共生を図りつつ、教育と学修の場を整備した。その環境に溶け込むように大学ゆかりの美術作家たちによるアート作品が点在し、キャンパスそのものが緑に囲まれた野外ギャラリーとなっている。環境デザイン学科ではキャンパス内に自生する竹を使った空間デザインの授業を行っている。

→ [多摩美術大学webサイト](#)



## ⑦ 東京工科大学 八王子キャンパス



所在地: 八王子市片倉町1404-1 / 面積: 380,811㎡

### ● 「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」 文部科学省、経済産業省、環境省

大学と地域が連携し、地域の脱炭素化を進めるため、カーボン・ニュートラルに向けた積極的な取組を行う、または取組の強化を検討する大学等による情報共有や発信等の場。東京学芸大学、中央大学、東京工科大学、東京都立大学、法政大学、明星大学、早稲田大学など188の大学と、企業や研究所など13の機関が参加している。

→ [カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリションwebサイト](#)

## ⑧東京造形大学 八王子宇津貫キャンパス



所在地:八王子市宇津貫町1556 / 校地面積:95,279㎡ / 校舎面積:32,789㎡

### ●竹林を活用した 八王子和紙プロジェクトとバンブーバイクプロジェクト

プロジェクト授業の一環として、キャンパスにある竹林を地域の人たちと一緒に伐採するなど、整備活動を定期的に行っている。また、採取した竹や自然素材から紙を作り、作った紙から作品制作をしたり、子ども用の「バンブーバイク」を作るなど、ものづくりの可能性を探り、地域資源の循環と地域課題の解決に取り組んでいる。

→日経BP『ひとまち結び』webサイトー竹で自転車を作る  
八王子の「スパダギ東京」が提案するサステナブルデザインのかたち



## ⑨法政大学 多摩キャンパス



所在地:町田市相原町4342 / 校地面積:752,209㎡ / 建物面積:140,668㎡

### ●多摩キャンパスにおける自然と生物の実態調査

法政大学多摩環境センターでは、2008～2010年にかけて多摩キャンパスの自然と生物の実態を明らかにする「法政大学多摩校地森林実態調査」を実施した。キャンパス内の森林の植生構造、樹木の年輪生長、動物相、土壌についてなどが調査され、さらに環境系のゼミが炭素循環や外来種の侵入状況などの調査を行っている。これらの成果が「法政大学多摩キャンパス 自然と生物」としてwebで公開されている。

→『法政大学多摩キャンパス 自然と生物』

## ⑩拓殖大学 八王子国際キャンパス



所在地:八王子市館町815-1 / 校地面積:1,072,762㎡

### ●拓殖大学改革プロジェクト「オレンジプロジェクト」

教職員・学生が一丸となって取り組む「オレンジプロジェクト」にて、キャンパス内の農園で農作物を育て、収穫イベントや市内の子ども食堂に農園野菜の提供、大学産野菜を使った料理教室などを行った。プロジェクト内のチーム「CONTIGO (コンティーゴ)」では、八王子国際キャンパスの立地を活かし、地域の環境保護と活性化を図り、災害時の防災拠点として自治体との連携を推進している。

→拓殖大学オレンジプロジェクトwebサイト